



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第14号

2008年2月発行・東久留米「九条の会」

代表者古田足日・連絡先鈴木Tel.042-473-9489

<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

◆私の主張

「広げる」と「深める」



二〇〇四年六月に出た井上ひさしさんたちの「九条の会」のアピールに添えて、東久留米「九条の会」が発足したのは二〇〇五年二月、今年の二月でまるまる三年がたつ。

振り返ると、発足当時ぼくはこの会の最大の目標は、東久留米市内で改憲反対の人数を多数にすることだと考えた。ぼくはやがてそれを「広げる」ということばでとらえていくことになる。

しかし、目標・目的はそれだけでよいのだろうか。九条の会アピールには「九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し」ということばがある。これがもうひとつの目標になるのではないか。そのことばをぼくなりにとらえ直すと、憲法理解を「深める」ということばになった。では、その「深める」とはどういうことなのか。

改憲反対の論拠の一つに次のような考えがある。(九条があるから日本は戦争に巻き込まれず、戦争で人を殺し、殺されること

もなかった。だから九条を守ろう。)そのとおりだが、この考えには一國平和主義といわれるような弱点があると思う。

この三年の間に憲法をめぐる情勢はだいぶ変わった。自民党の憲法案が発表され、郵政選挙があつて、衆議院で与党が三分の二以上をしめ、安倍内閣は教育基本法を「改悪」し、国民投票法を成立させたが、参議院選挙では民主党が第一党になった。

一方、九条の会の数は〇七年十一月で六八〇〇を越え、日本国憲法の研究も驚くほど進み、改憲反対運動の中にも変化が起つたと思う。運動の発展のなかで、九条はただ日本の戦争参加を防ぐ防波堤としてだけでなく、より積極的に世界平和を構築する働きを持つものとしてとらえられるようになった。この五月に開催される「九条世界会議」はその考えにつながっているものではないか、と思う。こうしたとらえ直しが「深める」ではなからうか。

ぼくはこの三年の間に「広げる」と「深める」が改憲反対運動の両輪だと考えるようになっていった。

(児童文学者・古田足日)

◆九条の会第二回全国交流会に参加して

「九条を生かす」運動に進めよう

二〇〇七年十一月二四日、都内で九条の会第二回全国交流会が開かれ、全国四七都道府県のすべてから、五一〇の会、一〇二〇人が参加しました。(現在、六八〇一の九条の会が結成―会事務局)。

呼びかけ人の奥平康弘、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、大江健三郎の各氏からあいさつをかねた発言があり、「これからの運動は相当に長いものになる」こと、「九条を守る」とともに「九条を生かす」、「憲法を活性化させる」運動に発展させること。そのためにも「日常的に地道に活動し、工夫しながらゆっくり大きくしていく方向に進む」必要がある、との呼びかけがありました。

また、全体会、分散会を通じて、二五〇名を超える活動報告がありました。

町内全戸訪問で募金を集めて「憲法九条の碑」を建立した沖繩・南風原。一昨年から一人で八二一〇筆の署名を集めた東京「九条の会・こがねい」の荻輪さん。「ピー・スナイト9」を五四大学、一一〇〇人の参

加で成功させた東大の宮崎さんは「私たちが九条を守る年代になるんだ」と実感したと発言。また、地域に署名に入っている長野、信州大学九条の会の学生たちなど、青年の活動が広がっています。「青年たちは偉大な先輩たちの活動を学びながら、九条を守る運動の後を継いでいきたい」との発言に大きな拍手が寄せられました。

最後に集会は訴えを発表。

①「九条の会」アピールへの賛同の輪を広げ、九条改憲反対、九条生かそうの圧倒的世論をつくる。②職場、地域、学園で九条の会の優れた内容と、改憲案の危険な内容についての理解を深める大小無数の集会を開く。③すべての小学校区に「九条の会」を合言葉に、思想、信条、社会的立場の違いをこえた「会」をつくるとともに、地域、分野のネットワークをつくり、交流、協力する―ことなどを呼びかけました。(皆川)



◆市内の取り組み

【東部九条の会】発足二周年のこと

東部九条の会は、〇七年十一月二五日、東部地域センターで二周年のつどいを開催しました。

講演は現役の私立中学の先生で、東京都歴史教育者協議会の事務局長をされている富永信哉さんにお話ししました。「教科書問題から見えてくる改憲論」というテーマで、一時間強、社会科学の授業を受けました。

沖繩戦集団自決に対する検定意見書の撤回を求める十一万人の大集会を報じた「琉球新聞」の一面と、二ページぶち抜きの記事を載せた実物の新聞を見せられ、他のマスコミヤ「本土」との温度差を改めて感じました。

また、集団自決という言葉はカルト集団のそれと混同するので、「強制集団死」と表現を変えるべきとの指摘もありました。

富永さんは靖国派教科書を使った模擬授業を実践した経験も丁寧に解説し、最後に自衛隊の存在など拡大解釈されている現行憲法を変えないことが憲法を守ることになるのか、問題提起されました。(糸魚川)

◆多数のご参加ありがとうございました！

痛快な笑い「松元ヒロライブ」

一月十二日、二〇〇八年の幕開けと五月に行われる「9条世界会議」のプレイベントとして「松元ヒロ・ソロライブ」を開催しました。雪まじりの天候にもかかわらず、開場前に中央公民館の外まで列ができるという盛況で、約三八〇名が参加しました。

ライブに先立ち「世界は9条に恋している」を上映、平和を望む世界の人の連帯メッセージを紹介しました。満を持して登場した松元ヒロさんは、日頃の重苦しい閉塞感を吹き飛ばす「ヒロさんならではの痛快な風刺の連続でした。

とくに「憲法くん」では、「私が生まれたとき、あんなに喜んでくれたじゃありませんか」「まだ、僕のこと十分に使ってないですよね」「現実にあわないから、現実に合わせておくしかないですか。理想にむかって近づけていこう、というのが普通ですよね」と演じます。

参加した七十代の女性は、「いままでで一番笑い転げた」と語るなど、大好評のうちに終わりました。
(大野)

◆九条を守る何でも展覧会

「ピースの木」

〇七年十二月十六日から五日間、第二回「ピースの木」の展覧会を開きました。入場者数およそ一三〇人。出品は多岐にわたり、絵や書、写真、手芸、クラフト、折り紙、陶芸、布絵本等々。

会場の中心にはダンボールで作ったピースの木を設置。参加者をピースピースとさえずる鳥に見立て、この木に集います。会場の「スペース105」は、いまや森の広場に交流したり。作品と鳥たちが平和な時間と空間をつくり、共有します。

充実した内容のイベントもあります。愉快だった「民話の語り」、心が安らくなった「ライヤの演奏と響きのワークショップ」、ディスプレイ「あなたの手に平和は握られていますか」。さらに、大型絵本の読み聞かせや紙芝居、クリスマスカード作りなど、盛りだくさんです。なにせ「九条を守る何でも展覧会」なのです。

実行委員会は女六人とその仲間たち。絵や物作り大好き人間が集まりました。平和・

九条を守るために私たちにできること、それが、展覧会「ピースの木」でした。
新年早々、新アロ特措法が通過しました。

「平和とは言葉ではなく、行動である」という誰かの言葉が胸にしみます。

夏には「Tシャツ一〇〇人展」を行います。絵が苦手な人や小さな子どもたちも参加できるよう、工夫するつもりです。世界に一つしかないTシャツをつくらせて、手と手をつなぎあう景色をつくりたい。平和・九条大好き！をつながってアピールできたら、きっと楽しいでしょう。

森から町へ、ピースピースとさえずる参加者大募集！ スタッフも大募集！

(連絡先・富樫475-5499)



◆お知らせ

「東久留米九条の会・三周年のつどいー9条世界会議プレイベント」を四月二十六日(土)、中央公民館で開催します。第一部はコカリナコンサート(黒坂黒太郎さん)、第二部はパネルディスカッションを予定しています。詳しくは次号でお知らせします。多数ご参加ください。



貧乏と戦争は表裏一体

太平洋戦争中は、「大東亜戦争史」と銘打って戦争記事の切抜きをノートに張りつけ、日本軍の勝利を信じる軍国少年だった。昭和一九年（一九四四年）の二月頃、海軍の乙種予科練を受けたが、近眼と痩せすぎで不合格、船員とされた。陸軍の軍属として、昭和二十年一月にシンガポールからの石油を運ぶ新東邦丸に乗船した。ベトナムのカラム湾で米潜水艦の魚雷攻撃を受け、ドラム缶の下敷きとなった陸軍見習士官の死亡を目撃した。

船は沈没をまぬがれたが、私は赤痢をわずらってサイゴンで下船。暫くサイゴンの陸軍病院に入院し、のちに軍の物資輸送でプノンペンへ転戦した。

プノンペンでは、青年を片端から徴用し、朝鮮の青年は兵補という星なし待遇だった。日本人の兵隊の最下級兵は、星ひとつの二等兵なのに朝鮮人には星さえない。豚の世話とか炊事場の下働きをするベトナム青年

もいた。日本兵たちは、その青年を怒鳴ったり顎でつかっていた。私も怒鳴りつけたら、四十歳代のベトナム女性から「小輩は年上の人にそんなことを言ってはダメ」と注意された。いま考えると、十代の少年が年長者に対する非礼は明らかだ。

ベトナムは南方戦線の後方にあつたが、空襲が激しくなり敗戦が近くなったら、総司令官は家財道具までのせた飛行機を飛ばして帰国してしまった。まさに日本軍の本質をあらわす出来事だった。

昭和二十二年五月に帰国したら、父と長兄は結核で死んでいた。次兄も結核が重くて寝ていたが、翌年に亡くなった。当時は生活保護も結核の治療薬もなく、我が家は「結核一家」といわれて、村八分にあつた。私は全く仕事がなく、貧乏のどん底にあつたが、辛うじて昔の知り合いの紹介で日雇いの土方仕事ができるようになった。

この頃から、私は社会に対する怒りが湧き起り、「改造」という雑誌を読むようになる。貧乏と戦争は表裏一体。貧乏をなくすには今の世の中を変えなければ、この思いが、今につながっている。

（滝山在住・篠原道夫）

〈平和を考える本〉

「戦争のない世界へ」

5大陸20人が語り尽くす憲法9条

編者 グローバル9条キャンペーン

（株）かもがわ出版 一九〇〇円＋税

本書は、海外の人々から見た日本国憲法9条の本である。イラク、アメリカ、コスタリカ、中国・・・から寄せられた思いは、表現はちがっても、唯ひとつの言葉に集約される。―9条を捨ててはならない！と。

例えば、フランスで集められた請願署名の一文には「われわれは、9条廃止に反対する日本の平和運動家と連携し、廃止ではなく世界のあらゆる憲法に9条を書き込むことを要求する」と記されており、今や9条は日本だけのものではない。世界の共有財産として、とらえるべき時代にきている。今年5月には、「9条世界会議」が日本で開催される。大切なものは何か、を、考える行動する年である。

◆9条世界会議

2008年5月4〜6日、幕張メッセほか全国各地で。

詳しくは03・336317561